

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100067
法人名	株式会社 ライフエイドジャパン
事業所名	グループホーム ライフエイド柏原ミルテ
所在地	福岡県福岡市南区柏原一丁目2番4号
自己評価作成日	平成25年11月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	-------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成25年12月5日	評価結果確定日	平成26年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. アットホームな雰囲気、スタッフ・入居者様とその家族の信頼関係を築いています。 2. 医療との連携を図り入居者様とそこご家族の意思を尊重し最期まで支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>ライフエイド柏原ミルテは1階がグループホーム、2階から5階までが有料老人ホームとなっている。医療法人恵光会 原病院との連携で365日24時間安心できる体制を整えている。施設内にはAEDが設置されており、職員はAEDの使い方を習得し、緊急時に対応できるようにしている。また、施設内部は防災カーテンやスプリンクラーなどの防火設備が備えられており、安全性を重視した造りとなっている。施設理念のもと、地域行事に積極的に参加するとともに、施設行事にも入居者家族や地域の方々を招き、交流の機会を設けている。生活空間は広く、明るい環境となっている。浴室も広く、脱衣室にはエアコンを設置し、室温を一定に保つ工夫をしており、タイルには滑らないようにマットを設置するなど、入居者の安全面に十分配慮している。トイレも共同空間に3箇所設けてあり、車椅子の方でも移動しやすい広さになっている。職員の滞在ルームも解放的で、いつでも入居者と会話ができるようになっており、ほのぼのとした雰囲気の施設である。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をかかげ共有し実践につなげている。	理念である「地域との交流を図り安心して生活できる環境作りを目指します」をリビングに掲示するとともに、各職員が名札の裏に携帯しており、常に意識を高め、日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、町内会の行事等に参加し認知して頂いている。	自治会に加入し、地域行事の定例会や運動会などへ積極的に参加している。また、地域の方へ、認知症の方を理解していただくために勉強会を開催した。顔見知りとなる関係作りにも努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じて、社会資源を活用出来る様に勉強会を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場でサービスの取り組み状況を報告している。また、そこでの意見や質問をサービス向上に活かしている。	入居者・家族・区長・民生委員・地域包括支援センターなど、多くの方が参加し、2ヶ月に1回開催している。事業所の活動内容や入居者の状況、災害対策の取り組み、外部評価の結果などを報告し、出た意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を密に取ることは出来ていないが、困った時疑問に思う事はその都度相談して協力関係を築くようにしている。	運営推進会議の開催などを通知したり、困難な案件などが生じた場合にその都度相談できる協力関係を築けるよう努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者・職員は身体拘束をしない取り組みや実践を行っている。また身体拘束等の研修や勉強会等にも参加している。	職員は入居者の外出傾向を把握し、玄関付近での諸動作などの見守りや声かけを行い、拘束しないということを前提に支援している。研修も定期的に行い、行動抑制をしないケアに努めるよう周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・スタッフは高齢者虐待防止についての研修会に参加し防止に努めている。		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の勉強会や実際に必要性のある方へ勧め、手続きを行っている。	成年後見制度を利用されている方がおり、実例を通して職員全員に周知している。また、内部研修や地域包括支援センターなど、外部機関とも連携しながら理解を深めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約至る前より見学や説明を行って、契約時にも説明を行い同意を得ている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より相談や意見を表し易い雰囲気作りをしている。職員で解決出来ない時は管理者や代表者に相談している。	家族来訪時にはコミュニケーションを深め、意見や要望の収集に努めている。また、家族会が定期的に開催される中で、意見や要望などを聞くように努め、日々のケアに活かすと共に、運営にも反映させている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が働き易い環境作りを目指し、月に1回主任会等に意見を出し運営に活かしている。	管理者と職員の間では、気軽に話し合える関係ができており、日常の業務やミーティングで率直な意見交換を行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じて柔軟に対応している。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員個人個人の自己実現に向けて双方で協議している。	職員の採用は年齢、性別の制限はなく、仕事に対する姿勢や働く意欲があれば、他国籍の方でも受け入れることを検討している。また、研修参加や資格取得を希望する職員には勤務シフトを工夫するなどの配慮を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者様への声掛け対応は人格を尊重し業務に取り組んでいる。また管理者・職員は人権研修に参加し、周知し取り組んでいる。	人権教育を年間計画の中に位置づけ、職員間で人権に対する理解を深め、意識を共有するように努めている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は法人内・外の研修をスタッフのレベルにあわせて実施し、資格取得等を勧めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会は無いがサービスの向上の為の勉強会を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入られた入居者様に慣れていただく為に、気持ちが伝わるように信頼関係を築き要望等があれば支援している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の要望等を言いやすい安心してもらえる様な雰囲気作りに心がけている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が今後の方向性を見極めながら他職種・関係機関と連携を取り、サービス利用に於いても支援できるよう努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は暮らしを共にするもの同士の関係を保ちながら安心して生活できる環境作りを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	最低でも週に1回は御家族が面会に来ら れるので随時近況報告を行っている。 また、看取りの際は御家族と共に過ご せるよう支援している。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所 との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方や遠くから知人が来やすい雰 囲気を作っている。	顔馴染みの美容院へ出かけたり、親戚・知 人が来やすい雰囲気づくりに努めている。 また、家族の協力を得ながら、行き慣れた 飲食店や一時帰宅など、これまでの馴染み の関係が継続できるように外出を支援して いる。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	一人一人の個性を把握し争いが無い 様、スタッフが中間役となって支援し ている。また、その人らしく共同生活 が行えるよう支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも、御家族が来られたり、様 子を伺いに行ったりして関係性を大切 にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	記録にきちんと本人の思い等を記入し ケアプランにもにも入れ御家族にも協 力して頂いている。	日頃の様子や会話に中で気づきを得な がら、思いをくみ取るようにしてい る。また、ミーティングや申し送り時 に情報を共有し、個々のケアに活かす ように取り組んでいる。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	これまでのサービス利用時の情報収集 も行っている。また、入居者様や御家 族との会話の中での聞き取りも行っ ている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人一人の現状の把握に努めている。 心身の変化、身体状況も含めて早期に 対応出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議、カンファレンス等でスタッフ、御家族で話し合いケアプランを作成し実践している。	入居者・家族の思いを踏まえ、医師・関係者からの意見を参考に介護計画書を作成している。また、定期のモニタリングやカンファレンスを通じて、現状や、見直しの必要性について確認している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の気づきや思いを介護記録に記入し、申し送りで情報共有している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存の変化にとらわれなくて、その都度状況の変化に対応しスタッフ間で情報を共有している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、入居者様が安心して暮らせるよう支援に取り組んでいる。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族の希望に沿って適切な医療が受けられるように支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診や往診を、入居後も続けられるよう支援している。また、経営母体の医療機関で定期的な往診を行っているため、安全な医療支援体制ができている。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化がある時は看護職員に相談し受診を検討し主治医と連携を図っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	提携病院については、情報交換を行っており、医療連携を取りながら早期に退院できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族、スタッフ、本人を交えてインフォームドコンセントを行っている。事業所での看取りを含めた今後の方針を決め、スタッフ間で共有している。	重度化した場合や終末期の対応については、入居の契約時に話し合い、方針を共有している。実際に今まで3件看取りの経験があり、関係者と情報を共有し、最大限の支援ができるようにしている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回、急変時に備えて、心配蘇生法やAEDの使用方法などの訓練や勉強会を開いて対応している。		
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で避難訓練を定期的実施している。また、運営推進会議にて地域の方にも参加して頂き訓練を行っている。	消防署の指導による昼夜を想定した避難訓練を年2回実施している。全職員は非常時の避難場所を把握しており、速やかに安全な場所へ誘導できるように訓練している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の生活の中で入居者様の人格を尊重しながら業務にあたっている。	入居者の言動や行動を否定したりせず、徘徊行動がある方にはさりげない声かけや見守りを行っている。日頃の声かけなど職員同士で注意し、入居者それぞれに目線を合わせ話をするように心がけている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や、自分の思いを表出する事が出来ない為、表情や態度でスタッフが察知している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように心がけ、入居者様のペースに合わせて過していない。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御家族の意向に沿うよう定期的に訪問理美容を利用し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単なテーブル拭きやお盆拭き等はして頂くが、重度化している為食事の準備等は出来ていない。	食事は共有施設の厨房で一括して作られており、バランスの良い食事を提供している。また、体調によっては、おかゆ、ミキサー食、キザミ食などを用意している。食卓を囲み入居者は安心して楽しく食事をしている。	入居者の嗜好を取り入れ、食事の準備から片付けまで職員と一緒に出来る機会を設け、家庭的な食事の時間を楽しくめるように期待したい。
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日生活パターンシートに記入し、食事量・水分摂取量を確保出来る様に支援している。また、それぞれの食事形態に合わせて支援している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る限り御自分で出来る入居者様は御自分でして頂き、義歯の方等御自分で出来ない方はスタッフが行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の生活リズムや習慣に添ってトイレ誘導し、オムツの方は排泄パターンを把握しオムツ交換を行っている。また、オムツ使用量をなるべく減らすよう努力もしている。	排泄チェック表を使ってトイレ時間や排泄状態を毎日管理している。また、出来る限りトイレ誘導を心がけ、オムツ使用を減らすなど、入居者の状況に合わせた支援をしている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況を把握し水分補給に努めている。重度の方が多く運動等の働きかけが困難な為、薬剤でのコントロール及び腹部マッサージ等で対応している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人の希望には添えないが身体状況に応じて対応している。	基本的に週2回入浴を提供しているが、入居者のその日の気持ちや体調に応じて臨機応変に対応している。また、普通浴が困難となった場合は機械浴を使用し、安心して入浴できるよう支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	臥床・就寝の時間は決めず、心身の状態や本人様の希望に合わせて気持ちよく眠れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服用している薬の目的を把握している。症状の変化がある時や、わからない時は、医療との連携をとり服薬の支援を行っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化している為、今まで出来ていた役割等が出来なくなっている。嗜好品や楽しみごと等は御家族と協力して頂きながら、気分転換等の支援を行っている。		
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車イスの方が殆どではあるが、年2～3回ほど外出支援を行っている。	本人の体調や希望に合わせ、散歩や買物、ドライブなどの日常的な外出をしたい。また、外食、花見、柳川のさげもん見物などの季節行事にも出かけられるよう支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度化にて金銭管理はスタッフが行っている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員ではないが、季節折々の絵葉書が届いている。読めないのでスタッフが読んで聞いてもらっている。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が落ち着いて暮らせるよう、音の大きさや光の強さに配慮している。	安全を考慮したバリアフリー設計の共用空間は、空調・音・照明などに十分配慮しており、開放的な場となっている。また、季節ごとに装飾を変えるなど、季節感を採り入れている。食堂は対面キッチンカウンターが設けられており、一緒に片付けをしながら、会話できるようになっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士話せるよう席の工夫をしているが、それぞれ見守りが必要な為、一人で過ごせるような居場所を確保していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ってきて頂き、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	明るく清潔感ある居室には、エアコン、照明器具、ベッド、タンスが備わっている。入居者が使い慣れた家具や生活用品、写真、装飾品などが持ち込まれ、自分の好みにあった落ち着いた過ごせる居室となっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すり等自立した生活が送れる様な工夫をしている。		